ニンニク栽培マニュアル

庄内みどり農業協同組合

1. ニンニクの生理と特徴

生育適温 15～20

好適 PH6.0～6.5 肥沃な排水の良い土壌を好むが、干ばつには弱い。

根張りの良い体をつくるのがポイント。玉肥大期の肥料不足に注意する。

寒地品種...福地ホワイト六片種 休眠は極深く、熟期は極晩生型。

2. 生育と作業図

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生育経過	<p>萌芽期 (10月～11月)</p> <p>出葉(3枚前後) 生育緩慢期 (11月～2月)</p> <p>生育旺盛期 (2月～4月)</p> <p>成熟期 (4月～6月)</p> <p>りん片分化期 (3月～5月)</p> <p>玉肥大期 (4月～6月)</p>											
作業		施肥 植付 除草	芽かき				除草 追肥	追肥		とう 摘み 収穫	乾燥	

3. 生育のポイント

発芽から越冬までの生育

- 発芽後、2～3週間後に葉身が展開する。越冬前に普通葉3枚前後。草丈20～40cmほどの生育を確保したい。
- 根数が多く、根張りの良い株に仕上げる。(未熟堆肥、過剰施肥、土壌の酸性等で根の障害が発生する) **越冬前に葉数3枚と十分な根量を確保**

越冬後から収穫までの生育

- 4～5月の乾燥に注意**。土壤乾燥が原因で葉先枯れ、根痛みの原因となる。
- りん片分化期(4月上旬)～成熟期(6月上旬)の灌水量が肥大に重要。天気を勘案して計画的に灌水を実施する。灌水は少量多回数のほうが、効果的である。
- 成熟期に入ると葉が枯れあがってくる。収穫時期が近くなったら灌水は徐々に控える。

4. 施肥と栽培のポイント

	肥料名	現物施肥量(10アール)	摘要
基肥	完熟堆肥	2000kg	前作施用の場合には入れない
	CDU 複合燐加安 S682	120Kg	(土畑は 100kg)
	ポリホス S666P	80Kg	
	ハイグリーン	60Kg	微量元素(肥大促進・葉先枯れ防止等)
	BM ようりん	60kg	PH6.0～6.5 が適。苦土石灰で調整
追肥	庄内 S604	50kg	3/中、4/中の2回(25kg×2)

PH が生育に大きく影響するので、事前に土壌分析を実施し土改剤の量を加減する。追肥は生育に応じて加減(回数・量)する。

【栽植密度】

- ・うね幅 100～120 cm 条間 20～24 cm×株間 20 cm
- ・4条植えの平畦を基本とする(通路 40 cm程度確保する)。

5. 栽培のポイント

植付方法と時期

(図 1)

- ・りん片を1片ずつばらし、大・小に選別する。
- ・種子消毒...アクテリック乳剤 1000 倍に 2 時間浸漬(チューリップサビダニ)。
- ・10/10～10/25 頃までに植え付ける。早くても遅くとも肥大に影響する。
- ・植付けは大・小別々に植えることで生育が揃い、肥培管理もし易くなる。
- ・植付けはりん片を真直ぐに植える(図 1)。深さは 6～7 cm程度。

灌 水

- ・萌芽や生育が不ぞろいとなるため、土壌状態と天気予報を確認し、適宜灌水を実施する。
- ・4月上旬から6月上旬の水分が肥大に重要なため、乾燥させないように留意する。

芽かき(1本立て)

- ・葉数 2～3 枚時に 2 本芽が出ている場合は、小さい株を抜いて 1 本立てにする(11月 図 2)。

(図 2)

追 肥

- ・1回目(3月中旬頃) 庄内 s604 25kg/10アール
- ・2回目(4月中旬頃) 庄内 s604 25kg/10アール

とう摘み

- ・5月下旬～6月上旬頃に抽だいしてくるので、摘み取る。

収 穫(6月中旬～)

- ・株全体の茎葉が 30～50%程度黄変した頃、球が割れる前に収穫する。